

緊急災害時動物病院災害対策マニュアル 《初動編》

日本小動物獣医師会
災害対策委員会



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会



着けええっ！

総員配置に

揺れがおさまった！
みんな避難だ！

災害発生！0時間！

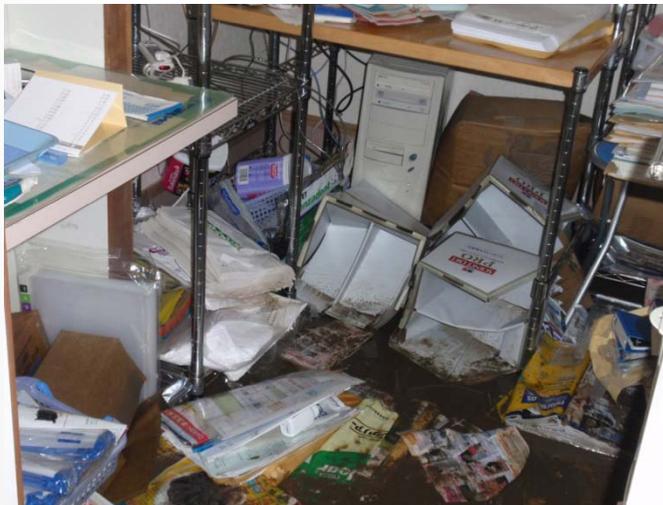


はいっ!!!



Japan Small Animal Veterinary Association
一般社団法人 日本小動物獣医師会





写真提供：石巻市 あべ動物病院 阿部俊範先生

災害時動物病院避難プランの作成

何処に避難するのか？



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

入院動物の避難・安全確保

動物病院の**海拔**、**地盤**、地域の**ハザードマップ**等を確認し、減災手段を講ずる必要があり、病院の立地条件による**院内避難（垂直避難）** or **水平避難（遠方への避難）** 等対応が違い、また津波は来ないと思われる所にも到達し、津波到着から数時間以上にわたり津波は押し寄せることがあるため、**災害時における病院避難プラン**を事前に慎重に検討作成しておくことが必要である。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

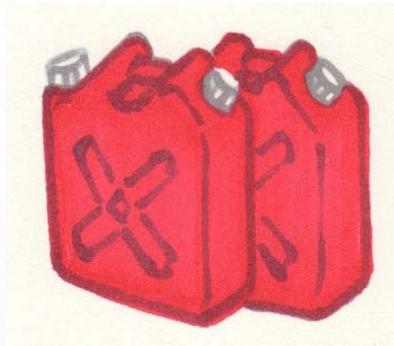
スタッフの避難・安全確保

スタッフを帰宅させるか否かの判断が必要となるが、震災度合いが酷い場合はスタッフ帰宅が良いとは言えない。そのため**スタッフの食料や飲料水の確保**（アクアクララ®給水器など、ペットボトルでの確保）、トイレ（ペットシートを人用に使用可）の準備が必要となる。また水が引き診療が開始された場合は、**防犯対策**が必要となる。



事前の備蓄

災害時に動物病院として事前に備えておかなければいけないものについては、各病院が消費する1か月分程度を目安に在庫しておくことで対応できる。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

1. 医薬品などの確保

薬剤の確保は、消費医薬品の1か月分を目安に在庫を確保しておくが、**腎臓、心臓疾患用薬剤、抗生物質などは多めに在庫**しておく。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

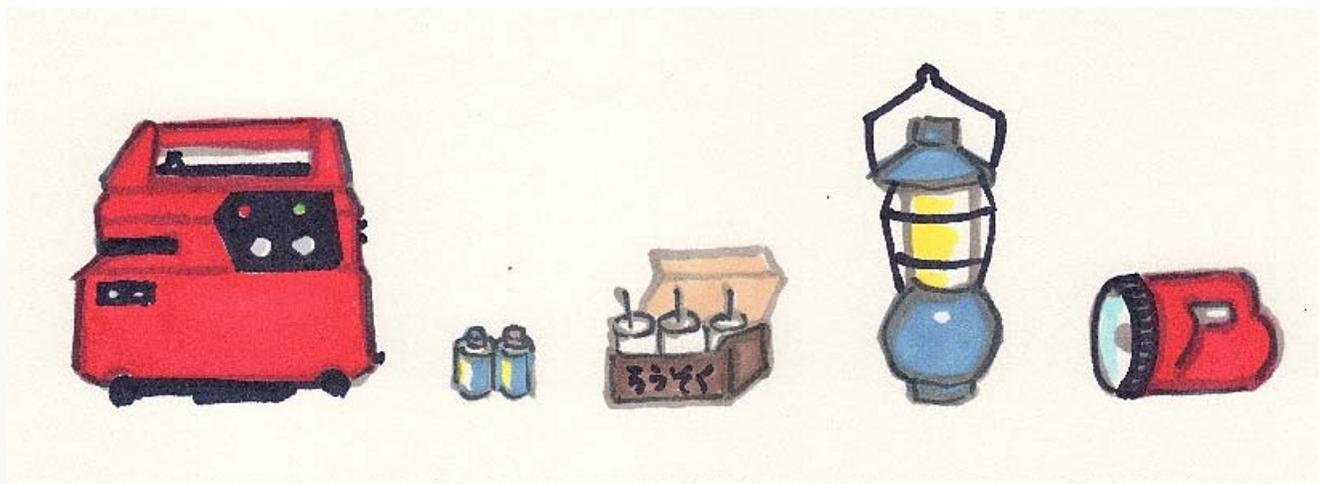
2. 動物の食料・飲料水確保

水の確保は困難なため日頃より待合室にアクアクララ®給水器等を導入するなど対策を考える。フードの確保は、病院で普段使用する普段一般用フード、療法食は1か月分を備蓄するが、とくに腎不全用、アレルギー疾患用のフードは多めに準備しておく。



3. 照明の確保

動物病院は意外に採光できる窓が少ない。停電時病院内は暗すぎるため**院内照明**として、非常用電源を確保する（非常用自家発電装置、蓄電池（バッテリー電源）と懐中電灯、ランタン、蠟燭、ランプなどの用意。**乾電池は多数在庫**する。



4. 衛生の保持

水道水や電気が欠如するため不衛生になる。**消毒用アルコール**（10ℓ容器入り、空いた容器は給水容器としても使用できる）、ビルコンなど普段使用する**消毒剤は容量の大きいものを普段より使用し備蓄**とする。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

5. 暖房・調理

非常時の煮沸消毒用としても使用できるため、**石油ストーブ**（電気を使わないもの）と**灯油の備蓄**、**カセットコンロ**（カセットボンベの備蓄）、**プロパンガス**などを用意する。



6. その他必需品

- ① 新聞紙の備蓄
- ② クレートの備蓄
- ③ 装備
- ④ グルーミングテーブル
- ⑤ 災害用往診バック



① 新聞紙の備蓄

入院動物の保温、津波が引いた後の院内清掃にも使える。

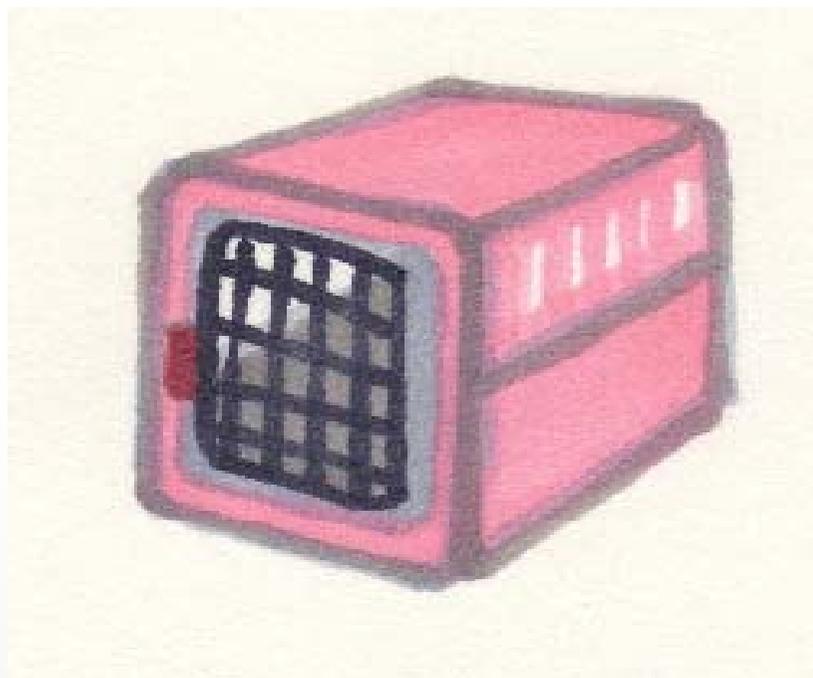


Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

② クレートの備蓄

動物の移動、入院治療維持、避難所への貸し出しのため。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

② クレートの備蓄



写真提供：石巻市 あべ動物病院 阿部俊範先生



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

③ 装備

長靴（安全靴）、軍手、ヘルメット、**首から下げる懐中電灯**、防塵マスクなど（スタッフの人数分）を準備する。



④ グルーミングテーブル

余震による危険性があるため屋内で診察できない場合、屋外での診察時に診察台として使用できるため、便利である（折り畳み式のものが便利）。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

⑤ 災害用往診バック

余震による危険性があるため屋内で診察できない場合、屋外での診察時に便利である。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

7. ライフラインの確保

- ① 通信手段
- ② 電気
- ③ 燃料
- ④ 飲料水
- ⑤ 交通手段

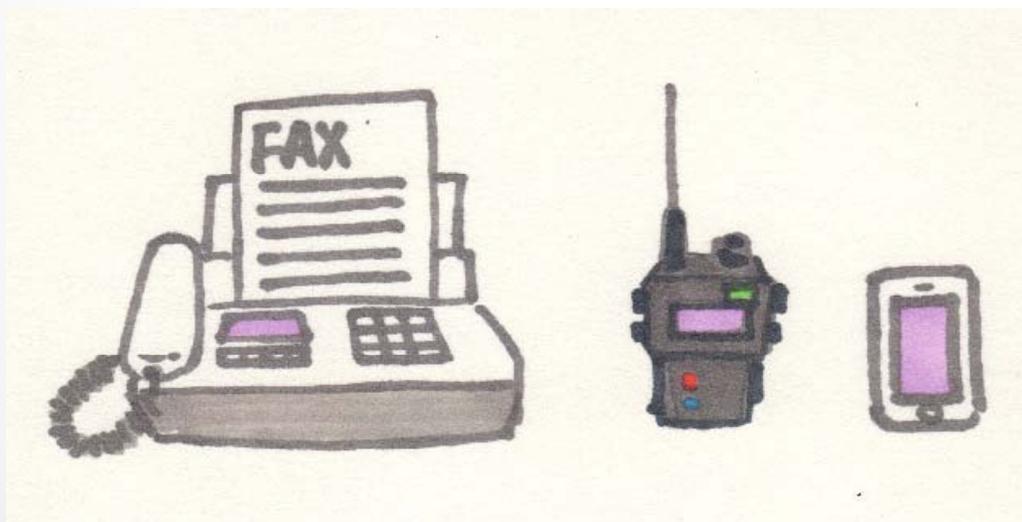


Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

① 通信手段

複数の手段を確保する（衛星携帯電話、固定電話、FAX,インターネット、PHS、携帯電話、中距離通話用簡易無線など。何が使えるかわからないため、いろいろな手段を考えておく。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

② 電気

停電時の非常用電源を確保する（非常用自家発電装置、蓄電池、バッテリー電源）、各種**乾電池の備蓄**。
※メンテナンス会社との復旧工事の優先契約を結ぶ。



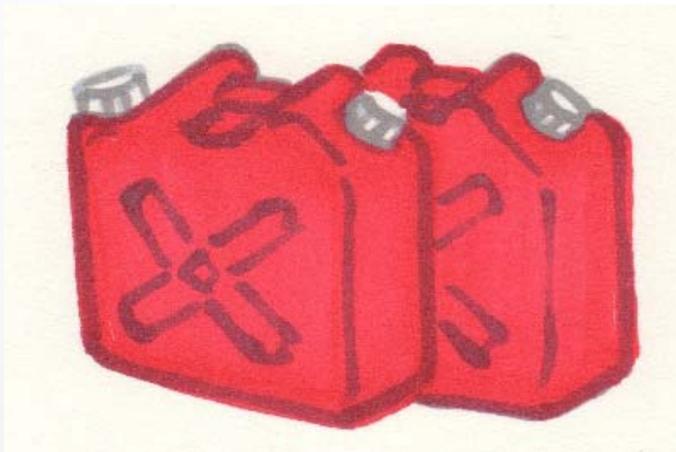
Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

③ 燃料

10日分程度の燃料（ガス、ガソリン、灯油など）
を常備する。

※災害時の燃料の優先確保や復旧について、ガソリンスタンドなどと契約する。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

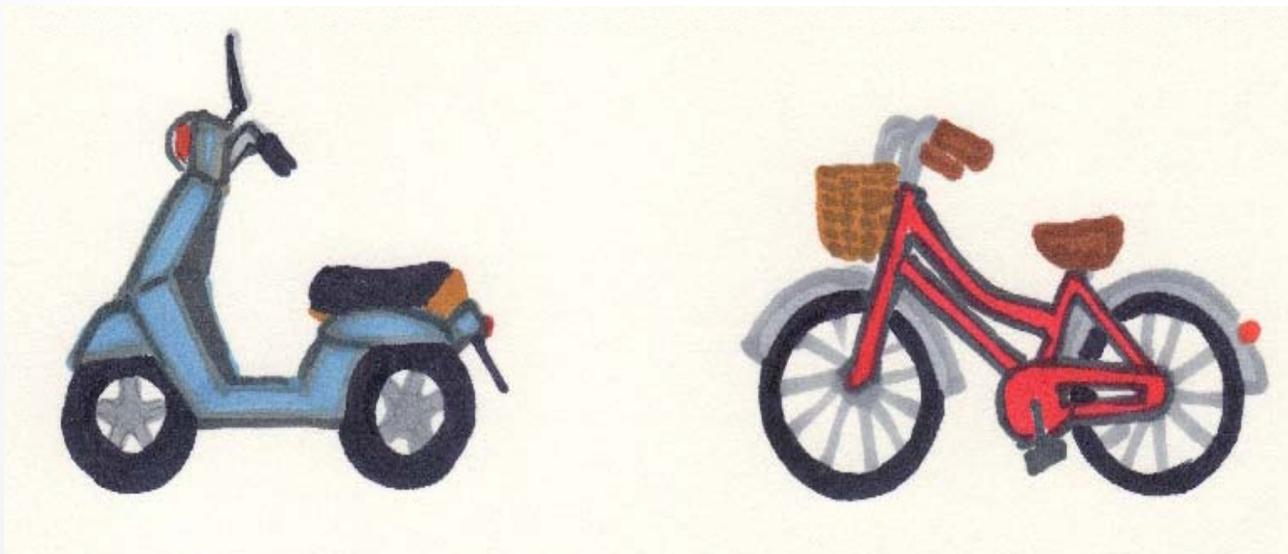
④ 飲料水

配水車による給水の受け入れ容器（ポリタンクなど）を常備しておく。普段から病院内にアクアクララなどを設置しておくのもよい（ストック分があるため）。



⑤ 交通手段

バイク、**自転車**（パンクしないタイヤ）の確保。自動車の場合はガソリンの備蓄（ガソリンは定期的に新しいものに交換しておく必要がある）。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

早期動物病院開院（BCP）

十分な診療が出来なくても飼主の安心に繋がるため、被災地の情報を収集し、**動物病院を早期に開院し、業務継続状況**（または再開予定）の情報を飼主に広く広報する。また、自ら被災し、避難所生活を余儀なくされた場合は、避難所内での診療再開も考慮する。

動物病院を閉鎖する場合は、可能な範囲で他施設（避難所）への支援や獣医師会が行う救護活動（動物救護センターなど）への参加協力などを行う。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会

災害発生時の被災地外の動物病院対応

自らは被災せず、救護活動を行う場合には、個人的に被災地へ出動するのではなく、所属の**獣医師会に問い合わせ、その指示に従う**ことを原則とする。救護活動は現地の情報を収集し、安全を確保した上で**自己完結（交通手段、食糧、飲料水、宿泊先など）**を原則として行う。被災者を支援したい気持ちはあっても、個々の獣医師がバラバラに被災地に出動した場合には、受け入れ側にかえって負担や迷惑をかけることになりかねない。



Japan Small Animal Veterinary Association

一般社団法人 日本小動物獣医師会